1989年5月8日第三種郵便物認可　2023年7月15日**不屈**　（毎月15日発行）No.589

中央理事会　平和と労働センター・全労連会館（2023年6月7日）

不屈

No. 589
治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟
編集発行人　田中幹夫
〒113-0034　東京都文京区湯島２－４－４
平和と労働センター・全労連会館
電話　03(5842)6461
FAX　03(5842)6462
E-mail
chian@bz03.plala.or.jp
頒価　50円

第41回全国大会めざし　平和守る闘いと結んで

２万人同盟建設へ決意かためる

中央理事会を開催

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟の中央理事会が６月７日、東京都内で開かれ、常任理事46人、理事40人が出席。最上健造副会長の開会あいさつにつづいて吉田万三会長があいさつ、田中幹夫事務局長が中央理事会への報告と提案、榎本よう子事務局次長が財政報告を行いました。岩下美佐子国際部長が、国際部の活動について報告。15人が発言、田中事務局長はまとめを行い、報告と提案などを承認。「『署名・会員拡大特別月間』を成功させる決議」と「日本政府は大軍拡・大増税ではなく、外交努力で平和を守れ」の２つの決議を拍手で採択しました。

あいさつに立った吉田会長は、情勢が急加速するなかで、国賠同盟らしい活動の前進が強く求められ、同盟の存在が大きくなっているとして、運動を進めるなかで若い世代への働きかけと継承は待ったなしとなっていると強調。

昨年６月の第40回大会以降の主な経過にふれたあと、岸田政権は、軍拡財源確保法、原発推進法、改悪入管法、マイナンバーカード法などの悪法をつぎつぎに強行したと批判。南西諸島をはじめ日本全土の軍事基地化、軍需産業支援で武器輸出国家を推進していると指摘しました。（２ページにつづく）

主な記事

●中央理事会開催……1
●私も一言／仲内節子……3
●顕彰碑／原菊枝……5
●抵抗の群像／北条　英……6
●同盟文芸／短歌・俳句・川柳……7

（1ページからつづく）

映画「わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯―」の上映運動が全国で8万人を超す観客動員と併せて各県・各支部の活動が活発化したと評価。国会請願署名は12万筆を超えるなど活動が上向いているとして、草の根からの運動を良心的な保守層との協力もすすめて「特別期間」を成功させようと訴えました。

田中事務局長は、情勢の主な特徴にふれた後、前大会で「2万人同盟を1日も早く実現しよう」と誓い合いましたが、6月1日現在の会員は1万6593人で前大会比15人減と報告しました。

この間の成果と教訓を明らかにして、来年6月に予定する第41回全国大会に向けて新たな前進を勝ち取ろうと呼びかけました。

映画「伊藤千代子」が日本映画復興賞を受賞。「種まく人びと」について受賞したことを報告。第3次上映運動では、当面10万人鑑賞をめざそうと訴えました。

23年度の国会請願署名は6月1日現在、12万1671筆、団体2236筆、2年ぶりに10万筆を突破。請願50回の累計は1172万775筆になりました。5月16日の国会請願行動には、101歳の菱谷良一さんはじめ33都道府県から138人の代表が参加。衆参両院の180議員事務所を訪問し、紹介議員への要請を行いました。

同盟運動を総合的に発展させる活動の基本は支部建設、大会後、新しく5支部が結成されました。

地方議会での意見書採択、学習・顕彰活動、困難県への援助、ブロック交流会、女性部活動、国際活動、『治安維持法と現代』の普及、財政活動などについて報告しました。

第32回全国女性交流集会は、10月29日～30日に愛知県蒲郡温泉郷で開催を決定。記念講演は半田滋さん（元東京新聞記者・防衛ジャーナリスト）で「新しい戦前にさせない　大軍拡・大増税を阻止する闘いの展望」（仮題）です。

昨年の全国大会から1年、「特別期間」を成功させて前進を勝ち取ろうと呼びかけました。

中央理事会での発言

17人（文書発言3人）が発言し、岩下美佐子国際部長、藤田廣登顧問（同盟千代子チーム）が特別発言。主な発言と発言者は以下のとおりです。

◎小松敦（千葉）

6月2日に50回目の総会を開く。県同盟は前総会を53人増、20カ月連続増勢。署名もメーデーなどで訴え6000筆を達成した。旭市に飯島喜美の顕彰碑。第3次伊藤千代子上映会に労組などに声をかけ取り組んでいる。

◎竹村利幸（長野）

署名、有権者比で全国1位に。9000の目標を12、000近くに、これは同盟員が野党共闘の方々に幅広く訴えたもの。「2・4事件」も90周年を迎える。

◎加藤ユリ（埼玉）

会員拡大では、毎月1回の常任理事会で対象者の名前をあげている。千代子映画、各市町村に実行委員会を発足させオール埼玉の

（3ページにつづく）

水車

今年も「千葉県平和のための戦争展」の実行委員会が始まりました。今年のテーマは「過去の戦争を知り、今日の戦争と平和を考える」に決まり、各参加団体より戦争準備の告発を企画▼沖縄南西諸島の軍事化について、マスコミがほとんど触れない中、軍事力強化が本格的にすすめられているその現状を沖縄対話プロジェクトとして告発します▼千葉の幕張メッセで、武器見本市を開催。武器は持たないと定めた憲法9条を持つこの日本で、人殺しの武器の売買など許されません▼3年前に、侵略戦争を美化する育鵬社の教科書問題では採択撤回を申し入れ、今年2月には安倍元首相の国葬と弔意強制に反対する申し入れを県と県教委に行いました▼そして国賠同盟千葉県本部からは、こうした歴史を戦前に戻すような事がなぜ繰り返されるのか。あの戦争と弾圧の歴史がきちんと精算されてこなかったことを告発します▼再び戦争と暗黒政治を許すな！　（小）

（2ページからつづく）

運動に。目標５０００人を超えて取り組みを進めている。合わせて県女性部をどうしても確立したい。

◎村山純（沖縄）

沖縄戦の歴史的戦争犯罪、台湾の「2・28事件」に学び、強力な県同盟を作っていきたい。

◎中村鈴枝（山口）

田中サガヨの墓前で「平和な日本を作る活動を」と誓った。安倍県民葬反対を取り組んでいる。

◎高原久美（徳島）

「笹の墓標巡回展」を取り組む。

◎伊藤恭子（新潟）

原菊枝の顕彰碑除幕式に菊枝の孫夫妻出席、レセプション30人、保存会を発足。若い人に引き継ぎたい。

◎大野辰男（埼玉）

会員数、21カ月連続前進、19カ月県最高現勢を連続更新。

◎横山博子（北海道）

１３００人の同盟建設をめざし、特別期間に取り組んでいる。

◎原屋文次（島根）

千代子映画を全市町村で上映を目指している。

◎瀬野幸男（山形）

全会員が参加する署名活動にするため取り組んでいきたい。

◎河井伸士（岡山）

20代の青年が入会。バトンタッチのため会員拡大を進めている。

◎西田清（滋賀）

特別期間率先して会員拡大を。

◎小日向昭一（新潟）

6月18日の県本部大会で「４００人の同盟」の目標を決める。

◎早崎末治（静岡）

会員拡大は目的意識的な追及が必要、中心は支部活動。月1回の県本部理事会でＺＯＯＭを利用して支部長事務局長会議を行っている。次期県本部大会までに５２０人の県同盟にしたい。

◎加藤宣之（奈良）

4月30日、長谷川テル訪問記念の碑の除幕式を１５０人参加で行った。全国の同盟員から建立費が寄せられ目標の４００万円を達成。

◎高山立（兵庫）

犠牲者への謝罪。名誉回復を人権問題とし運動の拡大を。

◎岩下美佐子（国際部）

国際部活動の現状について。

◎藤田廣登（同盟千代子チーム）

千代子映画運動について。

私も一言

武田美通「鉄の骸骨兵」と出合って

仲内節子

武田美通と鉄で造った骸骨の日本兵を知ってから19年。この作品に出会わなければ、戦陣訓、白骨街道、サイパン、沖縄戦等「知っている」つもりで終わっただろう。武田さんは沖縄では作品展はできないと諦めていた。ところが武田さん没後に沖縄県国賠同盟の村山純さんと知りあえたことで2回も沖縄展が実現した。村山さんは「沖縄でこそ展示されるべき作品」と言い、仲間たちを引き合わせてくれた。日本兵なんですよ、大丈夫?と確認した時「摩文仁の平和の礎」をごらんなさい、日本兵も県民も外国人も肩書なしで刻銘されているでしょう。みんな戦争の犠牲者です」と不安を払拭してくれた。結果、コロナ前の2年連続で県立美術館と摩文仁の平和祈念資料館での作品展となり大成功をおさめた。

いま村山さんは自衛隊員に見せたい、宮古島で作品展を、と提案してくれている。7月は東京での全作品展。物言わぬ鉄のガイコツ兵がその姿で戦争とは何かを語ってくれるはずだ。

（武田美通・鉄の造形「戦死者たちからのメッセージ」を広める会）

県本部が大会・総会

山形　有権者比1%署名、400人同盟を

第37回県本部大会が6月25日、山形市内で開催され、代議員30人が出席しました。

白根澤澄子会長が「情勢と同盟の任務」を提起し、共産党県委員会稲毛書記長の来賓あいさつ。中央本部吉田万三会長・同盟秋田県本部、国民救援会山形県本部・山形県労連からのメッセージが紹介されました。

県本部から、22年度の活動報告を踏まえて、23年度の主な方針として①県有権者1%・8500筆の個人署名、350の団体署名、②400人同盟建設、③自治体請願の再開、④「犠牲者名簿」改訂版の完成、⑤女性部活動の活性化と会員拡大、⑥年末募金一部支部還元などを提案しました。

代議員9人が発言。○署名活動について、月1回の支部役員会の開催・それを支部版「不屈」で情報提供、藤田廣登論文の学習、全会員に「一人5筆・10筆を」郵送、民主団体への粘り強い要請などが大きな力になった。また、全会員の署名参加（100人の一歩）とともに一人で100筆・200筆集める（一人の100歩）も全体を励ます重要な活動。

○会員拡大では、映画「伊藤千代子の生涯」の鑑賞者7人が入会、うち5人は実行委員会に参加した方、声をかければ入会の可能性があることを実感。同盟について若い人の心に届く宣伝・活動スタイルの研究が必要。

○同盟活動を活性化するためには、支部の全員に呼びかけての学習が重要。みんなで活動していく力をつけ、その中で役員の担い手もでてくるのでは。

また、「新しい戦前」と言われる中で、今日の闘いは戦前の犠牲者たちの不屈の闘いが励ましとなる、と自ら直面している闘いと重ねての発言もあり参加者を励ましました。

発言全体は県本部の提案を積極的に補強するもので、採決の結果全員一致で議案を採択。最後に岸田政権の大軍拡に反対する特別決議を採択しました。新役員は白根澤澄子会長、瀬野幸男を事務局長に再選しました。

（県本部事務局長・瀬野幸男）

香川　「笹の墓標展」に82人が参加、つながりのなかった人たちが参加

6月4日19人の参加で第37回県本部総会を開きました。香川の同盟員数はこの間、後退を続けていることから、まず150人の仲間づくり達成を目指す活動を訴えました。署名では、返信封筒が前年の2・5倍ほど送られてきており、会員全員のものとなるよう努力していきたいと思います。

民主的な活動の中で、文化活動において同盟の果たしている役割は本当に大きいものになっています。第3次映画上映は、小豆島支部で7月に2回の上映から始まります。総会の後取り組んだ「笹の墓標展」には82人が参加、まったくつながりのなかった人たちと知り合い、活動の幅を広げる契機となりました。小豆島の実行委員会は11人の参加で立憲の議員も参加しています。

学習では、ドイツ、イタリアなど犠牲者への謝罪と賠償の内容の具体化を学ぶことも提案されました。終了後、田村智子参議院議員の講演を視聴しました。会長には太田原生、事務局長には、田中和夫を選出しました。

（県本部事務局長・田中和夫）

特別期間 会員拡大顕彰者

（報告6月30日まで）

（10人以上　5人）
【新潟】小日向昭一
【千葉】渡邉喜代子、大野辰男、加藤ユリ
【埼玉】高山立

（5人以上　13人）
【北海道】歌代英蔵、竹田孝夫
【新潟】柄沢武美、桑原加代子、野崎洪
【千葉】小松実
【埼玉】林登美男、岩田治樹
【静岡】江川佐一
【兵庫】築谷時雄
【岡山】福井正樹、河井伸士
【熊本】内田順子

顕彰碑探訪

3・15事件で検挙収監 伊藤千代子と獄中闘争

原　菊枝

原菊枝は、１９０５年（明治38）年10月５日新潟県中蒲原郡川東村（現五泉市）に生まれ、県立新潟高等女学校を卒業後、兄素行とともに木崎村の小作争議に参加。農民学校の講師として活動。

28年１月上京し、日本共産党に入党。３・15事件で逮捕、市ヶ谷刑務所で伊藤千代子達と不屈の獄中闘争を展開。病気が重篤となり仮釈放。懲役２年執行猶予５年の判決。『女子党員獄中記』を執筆。発売３週間で発禁処分。城西消費組合に勤務、岩田秀彦氏と出会い結婚。直子出産後出版工クラブに専従者として家族で住み込み、労働者の相談活動、職業紹介事業に専心。44年４月、義父母と長女と共に新潟県新発田市に疎開。46年４月20日病没。享年40歳

顕彰碑建立にあたり全国からのご支援に感謝致します。

（新潟県本部副会長・伊藤恭子）

２０２３年５月27日顕彰碑建立除幕式

新潟市東区はなみずき２－３－７「あしぬま荘」庭園

【交通】ＪＲ新潟駅より、新潟交通＝東部営業所、北高校行東区上木戸２丁目バス停下車

「原菊枝顕彰碑」碑文

未来は我等のもの、何ものをも怖れ何に屈することあらんや

高橋東州謹書

原菊枝「女子党員獄中記」より

国会請願署名の紹介議員 １１１人のみなさんです

衆議院 74人

立憲民主党 61人

阿部　知子
安住　淳
荒井　優
新垣　邦男
石川　香織
井坂　信彦
梅谷　守
枝野　幸男
逢坂　誠二
大石あきこ
大河原雅子
小川　淳也
おおつき紅葉
奥野総一郎
落合　貴之
小沢　一郎
金子　恵美
神谷　裕
神津たけし
鎌田さゆり
菅　直人
菊田真紀子
小山　展弘
坂本祐之輔
佐藤　公治
篠原　豪
末松　義規
小宮山泰子
近藤　昭一
西村智奈美
櫻井　周
重徳　和彦
福島　伸享
階　猛
篠原　孝
下条　みつ
白石　洋一
徳永　久志
手塚　仁雄
寺田　学
長友　慎治
中川　正春
中島　克仁
中谷　一馬
野間　健
道下　大樹
緑川　貴士
森山　浩行
森田　俊和
山岡　達丸
山岸　一生
山崎　誠
山田　勝彦
谷田川　元
米山　隆一
柚木　道義
吉田はるみ
吉田　統彦
湯原　俊二
渡辺　創
吉川　元

日本共産党 10人

赤嶺　政賢
笠井　亮
穀田　恵二
志位　和夫
塩川　鉄也
田村　貴昭
高橋千鶴子
宮本　岳志
宮本　徹
本村　伸子

参議院 37人

立憲民主党 15人

打越さく良
小沼　巧
鬼木　誠
大椿ゆうこ
岸　真紀子
杉尾　秀哉
高木　真理
徳永　エリ
羽田　次郎
野田　国義
水岡　俊一
石垣のりこ
辻元　清美
横沢　高徳
勝部　賢志

日本共産党 11人

井上　哲士
伊藤　岳
岩渕　友
紙　智子
吉良よし子
倉林　明子
小池　晃
田村　智子
山下　芳生
山添　拓
仁比　聡平

れいわ新選組 3人

櫛渕　万理
たがや　亮
大石あきこ

社民党 1人

福島みずほ

れいわ新選組 3人

舩後　靖彦
大島九州男
天畠　大輔

国民民主党 3人

芳賀　道也
舟山　康江
嘉田由紀子

無所属 4人

伊波　洋一
高良　鉄美
寺田　静
永江　孝子

抵抗の群像

農民の生活擁護と反戦・平和の旗を高くかかげた

北条（ほうじょう）英（えい）

埼玉県寄居町折原地区（旧折原村）は、困民党で有名な秩父の山脈が起伏にとんだ裾野を広げ、丘陵の下を荒川の清流が流れている。

北条英は、１９０７年1月25日、東京の大森町で生まれ、この集落に4歳の時、父母の都合で、父の実家である東国寺に預けられ幼年期を過した。

教員赤化事件

熊谷農学校を卒業後、桜沢小学校の代用教員となった。1年して正教員となり、希望にもえる教員生活をスタート。桜沢小学校は、男子教員7人、女子教員3人の小さな学校。就任2年目65人の3年生を担任。子どもたちの親はほとんど農民で、弁当を持ってこない子、着る物も千差万別で、子どもたちを見守りながら、親友、吉沢孫兵衛の言葉を思い出した。

孫兵衛は、熊谷中学校、高等師範を経て、革命的無産運動をしていた。吉沢孫兵衛は言った。

「世の中は階級社会である。ブルジョアとプロレタリアの社会であり、支配する者、支配される者と区別されている」

北条は、農民生活に深くかかわることなしに農村教員の役割を果たすことはできないと思った。桜沢小学校には、関口、北条、高橋と3人の青年教員が勤めていて「資本論のからくり」「無産者政治教程」などを読んで語りあった。「唯物論、弁証法、天皇制」が主題になった。

当時教員は村人の尊敬の対象で、19歳で長身で美男の北条は桜沢村の娘たちのあこがれの的だった。その一人、内田百合子と大恋愛の末親の反対を押し切って結婚した。

「働けど働けど我がくらし楽にならざり」という小作農の生活に少しでも深く踏み込み農民と共に生きる真の農村教員としての生き方を追い求め続ける。

31年8月、校長に呼ばれ「退職に止むなき理由」を聞かされる。翌24日寄居署員2人によって検挙され連行された。逮捕理由は明らかにされなかった。世に言う教員赤化事件。25日特高の武藤警部補の取り調べを受ける。内容は「新興教育」中心で、高橋先生と行動を共にしたか、執拗（しつよう）に追及された。

北条は、農村に根を下ろし、農民生活を守り、農民と手を結んで子どもを育てる教育実践は当時の国家権力との闘いを必然とすることを深く自覚せざるを得なかった。北条は、農民として生きることを心に決め農民は生活擁護と反戦、平和の旗を高く掲げ続けた。

民主農村の建設をめざして

現金収入がなく、毎日苦しい生活が続いた。農業と百羽の鶏を飼い、賃機（ばた）を織って暮らした。全農組織に参加し寄居地方の組織拡大強化に奔走する北条に、特高警察による弾圧の嵐は、年々激しさを加えて襲いかかった。争議があれば検束と逮捕、投獄は繰り返され、野蛮な拷問にさらされる。

北条の拷問は、寄居、川越、大宮、浦和、川口、鳩ケ谷と各地の警察署を持ち回りで行われた。その残虐性は、言葉に尽くせないものであったが、北条は、良心の灯を守り通した。一カ所一週間から10日くらいのことで家族との面会はできなかったが、下着その他の差し入れはできた。

人間離れした虐待がすでに60日近く続き、その後50日余りの拘禁生活後、浦和検事局に呼び出され起訴留保で百日余りで帰宅した。

その後、全農埼玉聯合会への「多数派事件」での弾圧も受け、寄居、熊谷、浦和の豚箱で数カ月を過ごした。北条は、22年に創立された日本共産党を信頼し、岩田義道や小林多喜二のごとく日本帝国主義に反対し続け死をもってこれに抵抗する運動に共感した。

この日本共産党員の姿は、正義を愛し、幸福を求める指針は、私の求めるものであり、45年11月、日本共産党に入党しました。

（埼玉県寄居町元町議・田母神節子）

同盟文芸

短歌

雉田のぼる選

コロナ禍に耐えて三年仲間は集う八十路越えきし喜びがわく　埼玉県　福家　駿吉

虚ろなる総理会見見聞きし夜は耳鳴りひどし常にも増して　埼玉県　白川　洋子

「あの国は暮し無視か」と孫の聞くあの国とはどこ？あの国日本　岐阜県　和田　昌三

朝焼けの空仰ぎ見て口ずさむ若き日の歌いまも忘れず　岩手県　牛山　靖夫

戦争を知らぬ二世議員らが憲法審査会に愚論並べる　東京都　稲邑　明也

今日もまた「大谷」放つホームラン庶民の期待に応えるが如　岩手県　小杉　正夫

折合わず子との意見はさておきて同盟会員増えて和(なご)めり　静岡県　江川　佐一

中国人拷問の末試し切りと勇気の友よ語り部続く　岩手県　岸本　守

岸田首相タイムの表紙に顔写真真に軍事大国にしたいとのべたと　島根県　小玉　信恵

沖縄の卒業式と入学式曲だけ流れる「国家斉唱」　沖縄県　塩田　伸子

〈選のあとに〉福家作品は、コロナ禍をこえ、八十路をこえて集い会えた喜びが、率直に歌われている。白川作品の四句「耳鳴りひどし」は虚ろな総理会見の内容への強い抵抗のあらわれである。和田作品の「あの国」をめぐるやりとりの語の展開は、なかなか新鮮な感じを与える。

俳句

望月たけし選

戦前にさせぬと汗を拭いけり　埼玉県　小池　荘八

夏雲に向ひて開く資本論　神奈川県　天野三葉子

光太郎智恵子のジェンダー五月晴れ　東京都　岡崎たかね

ウクライナの向日葵畑や和平二字　三重県　橋本しげる

原爆忌鎮魂祈る列長し　兵庫県　岸本　守

〈評〉「新たな戦前」にしないための行動で汗を流し、資本論を学び続けます。社会変革を目指す多様な日常がどの句にも満ちていて活気があります。ウクライナに和平の二字。

川柳

鈴木いさお選

停戦が議題にならぬG7　北海道　三隅　雅游

〈評〉長引くロシア・ウクライナ戦を、いかに収束させるかが、重要テーマになるべき会議で、逆方向へ舵を切るG7。ゼレンスキーの来日も油を注ぐことにならねばいいが。

大軍拡行き着く先に核の影　埼玉県　福家　駿吉

安らかな眠りはいずこ核の傘　東京都　岡崎たかね

迫り来る夏の暑さと電気代　大阪府　佐々木雅博

いつの間に国家ぐるみの死の商人　東京都　稲邑　明也

治安維持法と闘った山本鶴男さんの自伝「彼岸花」輪読会

国賠同盟の県女性部は四月から毎月、定例会で山本鶴男さんの「彼岸花」を輪読しています。

山本さんは１９２９年から農民運動に参加、農民運動、労働運動、水平社運動が渾然一体となって運動を進めた革新の活動家として、また日本共産党員として厳しい弾圧の中を闘い抜き、生き抜いた人です。県女性部の朝倉彰子さんのお父さんでもあります。

「彼岸花」は戦前の農村の暮らし、県内各地の労働運動、農民運動と差別撤廃運動を具体的に生き生きと臨場感あふれる描写で、まるで映画を観ているように心躍ります。

ひとりでも多くの女性会員のみなさんと一緒に学びたいと思います。山本鶴男さんの人柄が、表現の豊かさか、彼岸花講談を聞いているような面白さもあります。

（岡山県女性部・谷口洋子）

日本映画復興賞受賞

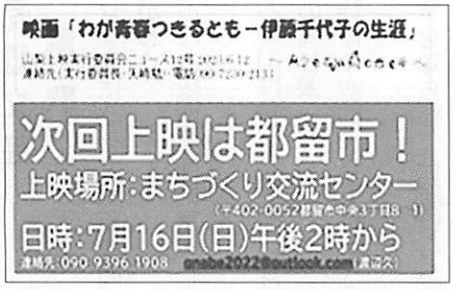
上映運動発展の二つの「環」

①情勢が求めている
②青年の中へ！

5月27日、映画「わが青春…」の日本映画復興賞受賞式で吉田万三会長は、「今、岸田政権が推し進めている大軍拡路線の情勢に、この伊藤千代子の作品はまさにタイムリーです。何とか工夫して多くの青年たちに観てもらい、運動をバトンタッチしていきたい」と挨拶しました。

同盟千代子チームは、会長の発言を受け、進行中の第3次上映運動は、①大軍拡反動連合勢力とたたかう人々の中に急速に上映の輪を拡げていくこと、②次世代担う青年と共に青年の中に広げていく方向性を明確にして取組みます。

映画「わが青春…」の上映運動の持つ特別の意義を明確にして、運動を一過性のものとせず持続化を推進しましょう。



全県の力集中して上映企画・山梨県実行委員会

2023年度日本映画復興賞「受賞記念の盾」（撮影内野明和）

大型弾薬庫新設に反対する会設立へ

同盟青森県　下北支部

昨年12月、岸田内閣は安全保障3文書を閣議決定しました。「敵基地反撃能力保有」をうたい、その具体化として海上自衛隊大湊地方総監部に長射程ミサイルを保管する大型弾薬庫の新建設計画が示されました。戦争になれば攻撃の対象になりかねません。それで「下北地域九条の会」の呼びかけで当面「九条の会」、平和委員会、新婦人の会、年金者組合、生健会、国賠同盟下北支部など八団体で大型弾薬庫新設に反対する会を設立しました。

さらに加盟団体を広げていくことにしています。今後は、各会の代表の参加による「世話人会」で運営をすることとなりました。

（青森県不屈6月15日号より）

事務局日誌

6月6日　三役会議
6月7日　中央常任理事会
同日　中央理事会
6月8日　編集会議
6月13日　藤岡隆雄衆院議員事務所訪問
6月19日　埼玉県女性部準備会
6月20日　北信越ブロック会議
5月25～26日　全国女性交流会場下見
6月29日　会長・事務局会議

2023年春季号（45号）
『治安維持法と現代』　好評発売中

【巻頭論文】「安保３文書」に意図する軍拡「戦争する国」づくり―岸田政権の危うさ＝清水雅彦、憲法を踏みにじって戦争準備にひた走る岸田政権を許すな＝小林節、鈴木安蔵の精神―憲法９条を守る意義＝金子勝、安保３文書と軍拡の危険性＝川田忠明、日本近現代史における軍拡・増税と今＝大日方純夫、安保３文書に立ち向かい、平和への展望をひらく学びをどうつくるか＝石山久夫、【文化】考古学者・戸沢充則の仕事＝勅使河原彰、多喜二文学の拡がり＝荻野富士夫、生物学者山宣は戦争にいかに向き合ったか＝永島民男、治安維持法犠牲者に国家賠償法の制定を求める請願の22年度紹介議員一覧

治安維持法と現代を結ぶ運動理論誌　定価1000円、申込みは中央本部・各都道府県本部へ。